人との関わりを大事にした教育

流山市幼児教育支援センター附属幼稚園園長　友谷（ともたに）　円（まどか）

1　はじめに

本園は流山市唯一の公立幼稚園である。県下の他の公立幼稚園同様、園児数が年々減少し、今年度は全園児数が28名である。園目標「えがおいっぱい、げんきいっぱい、やるきいっぱい」を実現するために、少ない園児数だからこそできること、やらなければならないことを考えながら毎日を過ごしている。

2　園内での関わりの中で育てる

少人数だからこそ一人ひとりの子供をより深く見つめて接したい。そこで担任と補助教諭が日頃の記録を持ち寄って定期的にクラス会議を開いている。個々の特徴・好きなこと・幼稚園生活で困っていること等の記録を基にして意見を出し合ったり、一緒に過ごす中で教師が考えた対応や悩み等を共有したりすることは幼児の理解・支援方法を考える上で大事な時間となっている。又、一人ひとりの困り感に対する支援の仕方もここで確認できるため担任と補助教諭が一致した対応がしやすくなっている。

４・５歳児の学級の枠を取り払った縦割り活動も増やすようにしている。年長児のよいモデルとなる子供の姿を目にすることは、自分もそうなりたいという年少児の憧れに変わる。憧れの気持ちが「真似をする」という行動につながり、やがて個々の成長を促す原動力になると期待している。

3　園外の人々との関わりで育つ

園児数が少ないと、限られた人間関係になりがちである。他者と関わる力やコミュニケーション能力を育むために、地域の人々との交流がとても重要になっている。

本園は隣に公立保育所・小学校がある。今年に入り、コロナ禍で途絶えていた交流が徐々に再開している。保育所とは年長児同士が園庭で一緒に遊んだ。普段人見知りしがちな子供たちが見知らぬ子供に声を掛け、笑顔で一緒に遊んでいる姿が見られた。

小学校では１年生と園児がおしゃべりをしながら楽しそうに七夕飾りを作っていた。同じように今年度再開した自治会の人たちと交流をする「竹とんぼの会」では教師以外の大人とじっくり関わり合える時間であった。自治会の皆さんは園児の言葉に耳を傾け、困ったら優しく声をかけてくれた。園児と一緒に笑い、夢中で遊んでくれたことで、子供たちは安心して素の自分を出しながら過ごしていた。このような園外の人々との活動経験は、他者を受け入れたり、自分をありのままに表現したりという人と関わる力を育む基盤となっている。

4　おわりに

幼稚園の２年間はあっという間である。一人ひとりの成長のために園内外でできることをしっかり考え、子供たちが笑顔あふれる２年間を過ごせるよう職員一同、精進し続けたい。